The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	特集：コロナ禍におけるメディア授業あれこれ
Author(s)	大前, 智美
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2020, 21, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/83269
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

特　集

特集：コロナ禍におけるメディア授業あれこれ

大前　智美（大阪大学　サイバーメディアセンター）

例年春学期開始前は慌ただしい。しかし、2020 年は特に、多くの混乱を招いた。コロナウイルスの影響で、緊急事態宣言が発令され、そこから数日のうちに春夏学期の全ての授業がメディア授業へ変更という通知が下った。

私たち語学教員の多くは日常的にメディア（コンピュータやタブレットを含む、あらゆる ICT ツールを含む）に慣れ親しんでいるわけではない。その語学教員がメディア授業必須の状況となり、従前メディアを利用した語学教員をサポートしていたサイバーメディアセンター言語教育支援研究部門のミッションは大きく変わることとなった。その新たな取り組みについて、また具体的にどのようなメディア授業が実現されたのかを、本特集では提示したい。

まず、言語教育支援研究部門の岩居弘樹氏についてであるが、コロナ禍におけるメディア授業のあり方、どうしたらメディアに不慣れな語学教員をサポートできるかを最も早くに考え、取り組みに変えた一人である。2 月末より Zoom を使った Zoom の講習から始まり、語学授業を支えるアプリケーションの紹介、使い方の手引きについてほぼ毎日講習会を行ってきた（2020 年 9 月現在、引き続き講習会を継続している）。本特集記事では、メディアの活用に長けた岩居氏のメディア授業の極意を紹介している。また、続く北岡千夏氏、西岡美樹氏、小杉世氏のいずれも岩居氏の Zoom 講習会で学び、メディア授業を成功させた語学教員の代表であり、その授業実践例は一読の価値がある。

北岡千夏氏は、3 年前から iPad cafe という FD を通して iPad、ロイロノート・スクールを授業で活用してきた。しかし、教室で iPad やロイロノート・スクールを使う授業とメディア授業では、勝手が違う中で、特に外国語学部高年次生向けに効果的な教材提示や課題のあり方を深く考えた授業を実践している。

西岡美樹氏も iPad cafe メンバーであり、今回メディア授業で活用した Bookwidgets というアプリケーションを紹介当初から活用し、数多くの練習問題や教材を作ってきた実績がある。その内容を紹介いただくとともに、ヒンディー語のような文字入力の難しい言語独特の苦労や今後に向けての課題を明確にしている。

小杉世氏は、CALL 教室や HALC 教室のような iPad を使う教室も使った経験がなく、「メディア授業初心者」（本人談）であった。おそらく多くの語学教員は小杉氏と変わらないであろう。しかし、Zoom による相談会に熱心に参加し、Zoom に加え、担当科目に合わせたソフトウェアの使用方法をマスターし、同期・非同期を組み合わせたメディア授業を実現したという報告をしている。

本特集は4名の語学教員の、コロナ禍において突如始まったメディア授業の実践をまとめた。混乱の中からも、これだけ素晴らしいメディア授業の報告がなされ、また引き続きメディア授業を行う教員に向けて、多くの示唆を含むものである。岩根久氏の巻頭言にあるように、「サイバーメディアセンターが「創造的な成果を生み出すために、情報伝達メディアの舵取りをする」」という言葉を受け、このコロナ禍にスタートしたメディア授業を今後もより良いものとする後方支援（舵取り）の一助になることを祈って、本特集をお送りする。

リアルタイムオンライン授業を支えたアプリとサービス----------岩居弘樹
“人類の救世主”チームに感謝----------北岡千夏
Bookwidgetsを使ったオンライン小テストの作成と実施----------西岡美樹
英語のメディア授業--試行錯誤の半年間----------小杉　世